

秋でも大型台風

大型で猛烈な台風19号が、日本へ向かって北上している。「急速強化」と呼ばれる急激な発達を遂げた。日本の南半分は夏のような気圧配置が続いているため、台風は東海上へはそれずに、週末に本州を直撃して豪雨や暴風をもたらす恐れがある。秋台風のシーズンは10月いっぱい続く。同じようなことが今後も繰り返す可能性がある。(関連記事を社会面に)

台風19号は7日午前6時〜午後6時の12時間に、中心気圧が55hPaに低下した。そう頻繁にみられる現象ではない。海

19号、週末に日本へ



日本へ向かって北上している台風19号(9日午前9時の気象衛星画像) —気象庁提供

面水温が30度以上の海域を通過しながら大量のエネルギーを補給を受けたほか、台風の渦をかき乱す上空の風がなかったのも原因とみられる。

最近の台風の発生場所やコースには、インド洋東部の海面水温が平年より低い「正のインド洋グレイホールモード」と、熱帯太平洋中部一帯の海面

海水温高く「急速強化」

水温が高めとなる「エルニーニョ・モード」の2つの現象が影響している。ともにかなりはつきりしており、相互に係している。

台風はずっと「猛烈」な強さを維持することはなさそうだが予想進路の海面水温は高めなので、「かなり強い勢力のまま接近する可能性がある」(名古屋大学の坪和久教授)。多少、構造が崩れても広範囲に及ぶ発達した雲と強風域は伴ったまま動くと思われる。

特に、台風の進路の東側では警戒が必要だ。南から流れ込む暖かく湿った空気が雲を発達させて豪雨になりやすく、暴風も吹きやすい。太平洋に面した湾に南風が吹き込めば、高潮による洪水の恐れも出てくる。

今年の台風発生数は1〜6月には計3個だったが、7月は4個、8月に5個、9月は6個と増えた。19号は10月に発生した最初の台風だ。7月以来、約半数が日本に接近または上陸している。千葉県に強風被害をもたらした15号のように、上陸直前に強まったものもある。

1981〜2010年の平均でみると10月の台風の発生数は3〜4個、年間では25〜26個だ。今年にはあと数個できてもおかしくない。秋雨前線も時折顔を露出しており、季節の歩みがやや遅れている。豪雨や強風への注意はまだしばらく必要だ。

(編集委員 安藤淳)